フォト俳句集

二〇二一

平口哲夫

はじめに

俳句については、高校までの学校教育で学んだ程度で、俳句の先生に弟子入りすることもなければ、俳句の入門書や俳人の句集を読むこともありませんでした。

ただし、二〇〇四年十二月に入会した金沢犀川ワイズメンズクラブの第一例会で三谷信三会員の奥様、道子さんに俳句入門をテーマに卓話を二〇〇七年の八月、二〇一二年の一月と十一月、計三回していただいたことがあります。三谷道子さんは、石川県俳文学協会常任理事であり、朝日新聞金沢支局に寄せられる投稿俳句の審査員もなさっていたので、俳句について話をしていただくことになったのです。

とは言っても、俳句についての詳しい解説は抜きで、開催季節の季語を用いた自作の俳句を出席者が前もって卓話者に提出、それを一括して印刷したものを当日会場で配布し、出席者が自分以外の作品のなかで最も良いと思うものに投票、その結果をふまえて卓話者がコメントするという方式でした。

また、茶房「犀せい」の店主、村井幸子さん（元・読売新聞記者）は「〃句呑会（ぐどんかい）」という、素人の俳句会を毎月主催しており、事前に指定された季語を用いた句を出席者が持ち寄り、前述のような方式で主席者が投票、獲得票の多いほうから天・地・人と三位まで選出しています。私はこの句会に参加したことはありませんが、フェイスブックに掲載される結果を読んでから、コメント欄に即席の自作俳句を記すということを何度かしております。

この「〃句呑会」の常連の一人である小川修さん（グラフィックデザイナー）とは、茶房「犀せい」を会場にして開催される「いまを考える市民ネットワーク」の呼びかけ人会議で知り合った仲です。小川さんは、自作の俳句をポスターのようにデザインした作品を「小川修のアート５・７・５展」として石川国際交流サロンでたびたび開催。それを見習って、私も自作の俳句と写真を組み合わせた絵ハガキを作成し、フェイスブックで紹介。今回、それら四八句を『フォト俳句集 二〇二一』として纏めてみました。

テレビ番組「プレバト」では、俳人の夏井いつき先生が査定する俳句部門があり、おもしろく視聴しています。私の俳句など、「凡人」とか「才能無し」とか評されそうですが、随筆を短く五・七・五の定型で記したものとしてお読みください。俳句の研鑽に励んでいるわけではなく、実体験を易しい言葉で表現しています。また、定型から外れた字余りや字足らずは、好きではないので、用いない方針です。

表紙の写真は右上が金沢城石川門の桜、右下が自宅庭のバラの花、左上が山中温泉こおろぎ橋から見た紅葉、左下が自宅庭の実ナンテンを撮ったもの。

二〇二一年大晦日　　平口　哲夫